



まじめなかね

Vol.181 発行: 2023.10.15 出雲市立総合医療C 病院だより編集委員会

新しく着任した医師を紹介します



内科

診療部長

さとう ひろし
佐藤 宏

佐藤宏と申します。10月から内科医師として着任いたしました。

旧平田市の出身で、この病院で生まれ、平成3年から平成5年まで島大第2内科の初の研修医として当院で勉強させていただきました。

この度30年ぶりに帰ってきました。地元の皆さまのために内科全般の疾患に対応していきたいと存じますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

インフルエンザ予防接種のご案内

当院でのインフルエンザ予防接種を次のとおり行いますので、希望される場合は、来院又は電話にて必ず予約をしてください。なお、ワクチンがなくなり次第、終了とさせていただきます。

1. 接種日 高齢者・一般 毎週火曜日、木曜日、金曜日の午後
小児(15歳以下)及び保護者 毎週火曜日
2. 申込方法 紹介患者窓口又は電話で予約してください。(電話：0853-63-5111 (代表))
3. 料金 出雲市民の方(他市町の方は、お尋ねください。)

対 象	料 金
①満65歳以上の方	2,000円
②満60歳～満65歳未満の方で心臓・じん臓・呼吸器に1級程度の身体障がいのある方	2,000円
③満65歳以上で生活保護受給者	無料
④満65歳未満の方(②を除く。)	4,600円
⑤小児(15歳以下)2回接種	1回目：4,600円 2回目：3,000円

医療チームに欠かせない 看護補助者と看護職の協働



病院でどんな職種が働いているかご存じでしょうか？

医師、看護師、薬剤師、栄養士、リハビリスタッフ、臨床検査技師、放射線技師などなど、患者さまを取り巻くたくさんのスタッフがいます。

🍁 看護補助者ってどんな仕事をしているの？

病院では、患者さまに対して安全で質の高い医療サービスを提供するために、専門職をサポートする人達の存在と協力が不可欠です。その大きな力となっているのが、看護補助者です。

看護補助者は、医療行為を行うことはありませんが、医療チームの一員として看護職とともに患者さまが、より良い医療・看護を受けることができるように環境整備や日常生活のお手伝いをしています。患者さまと関わる機会の多い看護補助者という職業は、お世話した患者さまやご家族さまが笑顔になられたり、元気になって退院される患者さまに関わることができ、やりがいや充実感に繋がる職業といえます。

🍁 看護職と看護補助者が協働するうえで大切なこと

看護職と看護補助者は、多くの時間を患者さまの身近なところで支え続ける存在でありチーム医療のキーパーソンです！

患者さまにとっての安心で安全な医療を提供するためには、タイムリーな情報交換・共有が重要です。そのため、私たちはお互いが意見を言いやすい環境・関係づくりを日々大切にしています。



🍁 どんな人が看護補助者に向いている？

- 根気強く、仕事に使命感を持てる人
- 体力に自信のある人
- コミュニケーション能力がある人
- 人に対するやさしさと奉仕の精神がある人



🍁 看護の現場と患者さまを支える看護補助者！

興味のある方、私も働いてみたいと思われた方、ぜひ一緒に働いてみませんか？

病院のお仕事紹介：リハビリ専門職

リハビリテーション技術科は理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の3職種が所属しており、計22名のスタッフが働いています。

「地域の生き活きを支えるリハビリテーション」をスローガンに、主治医からの処方をもとに、入院患者さんに必要なリハビリ医療を提供しています。また院内各部署と連携して、認知症ケア、栄養サポートなどのチーム活動や入退院支援、訪問リハビリにも取り組んでいます。



❁ 理学療法 (PT : Physical Therapy)

理学療法は脳血管疾患、骨折などによる障害や手術などによる廃用症候群を有する患者さんに対して、起きる・立つ・歩くといった基本動作の練習や食事・トイレ・入浴などの日常生活の練習等、機能回復・維持、予防を目的に行われる治療です。特に、回復期リハビリテーション病棟では、実生活場面での歩行や日常生活を想定した練習を行いながら早期の在宅復帰を目指します。さらに生活を改善させるためにご家族への介助方法の指導や福祉用具の検討、住宅環境整備の助言を、病棟スタッフやサービス事業所との連携を持ちながら行っていきます。



❁ 作業療法 (OT : Occupational Therapy)

作業療法は病気やけがをされた方に対して、自分のことが自分でできるように、また、家庭や社会に戻れるように身体機能（体力、手足をうまく使えるなど）、身の回りの動作（食事、トイレ、入浴、身だしなみなど）、生活に関わる動作の他、認知症を含む精神機能、高次脳機能障害に対して実際の動作練習や作業訓練を行っていく治療です。回復期リハビリテーション病棟では、早期の在宅復帰をめざし、より自立した生活が送れるよう練習を進めていきます。入院中からご家族へ介助方法の説明も行います。また在宅生活を安心して送ってもらうため、ご自宅への訪問をさせていただいたり介護サービス事業者との連携も行っていきます。



❁ 言語聴覚療法 (ST : Speech Therapy)

言語聴覚療法は「話す」「聞く」「読む」などの言葉のこと。食べ物や水分の「飲み込み」がむずかしい方などのリハビリを行っていきます。それには言葉の検査や、嚥下内視鏡 (VE)・嚥下造影 (VF) などの飲み込みの検査を行っていきます。患者さんに合わせた会話練習や教材を用いた言葉の練習・発声練習や身振りや手振り、表情などのいろいろな方法で情報を伝えるなど、ひとりひとりに合わせたコミュニケーション方法がとれるよう支援しています。また、口の体操やマッサージを行ったり、実際に食べる練習、食べ方のアドバイスも行います。

❁ 終わりに

リハビリテーションとは単に訓練をさす言葉ではなく、障がいをもった方が可能な限り元の社会生活をとりもどすことを意味します。身体機能の回復を図ることはもちろんですが、時には道具や社会資源を利用することによって生活をサポートできる手段のご提案や、継続が必要な医療・介護サービスへバトンをつなぐことも私たちの大切な役割です。

また、療法士を目指す学生の育成、教育にも携わっており、ご協力いただける患者さんには学生と共に対応させていただく場合もあります。未来の療法士たちのためにもご協力をお願いします。